

井原 ゆたか

(発行日) 令和6年10月

(発行) 井原ゆたか事務所 さいたま市中央区下落合 1071-1 Mビル4 3F

活動報告

さいたま市の未来に向けた課題

- 1 学校の教育体系が危ない
- 2 昭和から動かぬ大宮駅
- 3 大規模イベントによる税金浪費

6月定例会の一般質問

2050年を見据えた財政見直しについて指摘

ライフワーク

天体観望会の開催
ボーイスカウト活動

ご挨拶

解体予定の沼影プール前にて(2024年9月撮影)

今年6月定例会において3期目初めての一般質問に登壇しました。現在赤字財政に転落した中で、20年後の未来を見据えたまちづくり計画を考えているか、を問いました。

今のさいたま市は行きあたりばったりの計画が散見され、本当に重要な投資が行われないうまま、社会保障費は増加していくので、私たちの子どもたちの時代には大きな負債を残します。私が子どもの時には、大宮駅に新幹線が通ったことで、西口には大きな投資が行われ、歩行者デッキやソニックシティなどで街が大きく変わりました。そして、首都高速埼玉大宮線やさいたま新都心、埼玉スタジアム2002など街が便利になり、ワクワクするような変化があった時代でした。まちづくりには時間がかかりますので、今の市政が続けば私たちの子どもたちはワクワクするような経験が得られなくなります。私は、この失われた30年と言われる時代から脱却し、この街に暮らす皆様がこの街で生まれ育ってよかったと思える街を、そして未来に向かって夢を描けるような市政を共に創れるよう、様々な提案をさせていただきます。

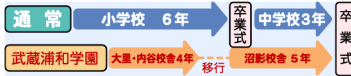
井原 隆

さいたま市の未来に向けた課題 ~このままだと20年後の未来が危ない~

必要なまちへの投資がされないまま、不必要な事業へ巨額な財政支出があります

1 学校の教育体系が危ない

武蔵浦和でいびつな義務教育学校の建設が間近に



多くの子どもたちや地域の方々へ愛された沼影公園は、今年3月に市民の方々と合意のまま廃止されました。そして、令和10年に向けて巨大な学校を作る計画があります。

通常は小学校6年間、中学校3年間の学校生活を送りますが、武蔵浦和地区では小1-4と小5-中3で分断され、いびつな小中学校生活になります。また小学校の卒業式はなくなります。

さらに、既存の沼影小、大里小、内谷中は廃校となり、全体を義務教育学校に作り変えるので、**予算は300億円以上**もかかります。さいたま市内の教育格差や通学路の安全性の確保など、多くの問題を抱えています。

該当地域からの不安の声

校舎が分かれた3000人超の規模の学校生活で管理は大丈夫でしょうか？

小学1年生から6年生まで一緒に過ごすことが出来なくなります。

小学校の卒業式がないまま、学校生活が終わると悲しいです。

通学範囲が广大で、徒歩から30分以上歩いて沼影校舎まで通う子もいます。

さいたま市全域でも将来の課題に

- 武蔵浦和学園にだけ多額の予算を使い、他の学校の改修工事が遅れてしまいます
- 文科省の方針が外れた事例が数世代に渡って、さいたま市に残ります (※他義務教育学校の事例は1つの校舎で9学年)

そもそもこの学校を作る理由は隣接する別所小学校の過大規模化を解消することが目的でした。それは、**学区の変更や沼影小学校のリニューアル**だけで解決できますし、10年後には生徒数も減少します。少子高齢化に合う現状で、この建設計画はさいたま市に必要な投資ではありません。

2 昭和から動かぬ大宮駅

旧大宮区役所跡地 市民会館おみやぎ跡地も計画なし

この10年で上野東京ライン開通や北陸・北海道新幹線延伸で便利になった大宮駅ですが、**駅周辺の整備は20年以上動いていません**。大宮駅の改良計画(GCS化)も約10年前からあって、計画自体は都度更新されているものの、具体的なスケジュールは明示されず、完成がいつになるか分かりません。

一方で、新駅や渋谷駅は未来に向けて大きく動いています。**東日本の玄関口**であり、人口も伸びている地域だからこそ、**大宮駅には躊躇なく投資して、経済成長を促すべきではないでしょうか？**

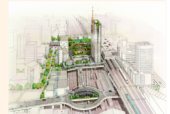
大宮駅GCSプラン2020より

- 必要最低限の改修
- ・新東西自由道路
- ・東武線の乗り換えを便利に
- ・東口に交通広場を整備
- これでも完成は20年後 (計画に私有地も含まれる)
- ※GCS=グランドセントラルステーション



2017年渋谷議員一般質問より

- ・大宮駅北口の新設
- ・大栄橋に接続し、経済圏を拡大
- ・民間投資によるシンボルタワー
- 夢のある計画に私有地も含まれるので完成までは約10年
- ※新駅や渋谷駅の改修に要した時間と同程度



1967年と2024年の大宮駅東口

駅前広場や駅前の建物の形状は、50年以上前から変わっていません



3 多額の税金浪費

経済効果のない大規模イベントは継続

清水市長が始めた大規模イベントには毎年巨額の税金が使われ、**累積では50億円以上**も使われています。単発のイベントなので、開催の地元(中央区)でも**経済効果は目に見えません**。この金額があれば、公共施設や道路などのインフラ整備や子育て支援や福祉などの社会保障の充実の方が大事ではないでしょうか？

さいたまマクリテリウム

1回あたり予算7-8億円 (内、市負担約3億円)
計10回開催しているので約30億円消費
自転車レースはマイナーで、スポンサー&入場料収入も少ない。
さいたま市民の観戦者が増えているわけでもなく、自転車競技も浸透しない。



国際芸術祭

1回あたり予算約10億円 (内、市負担約6-7億円)
3年に一度の開催で計3回開催しているため、約20億円消費
開催場所にも莫大な費用がかかる。巨額の予算を使うわりに、市民の認知度も低く、効果検証もされていない。



井原ゆたか事務所

Tel : 050-3418-7058 Mail : contact@yutakaihara.jp
Fax : 050-3588-4018



井原ゆたか公式HP <http://www.yutakaihara.jp/>

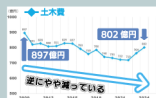
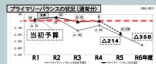
6月定例会の一般質問

2050年を見据えた財政見直しについて指摘

清水市政(2009～)のさいたま市財政収支は2022年までは黒字でしたが、昨年度から財政は赤字に転じ、今後も見直しはよくありません。その一因は主に社会保障費などの民生費が大きく増加したことです。一方で主にインフラ投資に当たる土木費は減少しました。さいたま市の人口増に伴って予算規模が増えても、まちづくりの計画がなかったために必要な街への投資が行われず、結果として街の価値は上がらず、歳入も伸びず、ジリ貧になっています。

また、10年前から市庁舎移転、大宮駅GCS、地下鉄7号線延伸という500億～1000億円超規模の事業計画がありながら、実効性が乏しい状態です。行政の長がリーダーシップを発揮し、具体的にいつやるのか?という方針を定めなければ、**財政平準化の観点からいつまでも着手できない状態**が続きます。

今、必要な投資は何か?を見極めることは大切です!



井原ゆたかのライフワーク

① 天体観望会の開催

私は子どもの頃から宇宙に興味をもっており、学生時代は天文学を学んでいました。その経験を活かして、地域の子どもたちと夏の夜空を楽しみました。

望遠鏡で夜空を眺めると、月はまぶしいほど見え、肉眼では見えない星も見ることが出来ます。自治会やPTA、各種団体から天体観望会開催のご要望がございましたら、お気軽にお声掛けください。



② ボーイスカウト活動

指導者の一員としてボーイスカウト活動に取り組んでいます。ボーイスカウトでは子どもたちが季節に応じた野外活動を通じて、自主性、協調性、社会性やリーダーシップなどを学ぶことが出来ます。

体験会も定期的に開催しておりますので、ご興味のある方は一度参加してみてください。



井原 ゆたか プロフィール ● 1983年1月13日さいたま生まれ (41歳)

淑徳と野幼幼稚園 卒園
与野本町小学校 卒業
麻布中学校・高等学校 卒業

東京大学理学部天文学科 卒業
東京大学大学院理学系研究科博士課程修了 / 理学博士取得
慶應義塾大学大学院経営管理研究科 修了 / MBA 取得

2010年 東芝ソリューション株式会社 入社
2013年 トヨタ自動車株式会社 入社 (出向)
2015年 さいたま市議会議員 初当選
2024年現在 3期目

2022年 JAXA 宇宙飛行士選抜 TOP50 に選出

